

修了考査試験

対象資格名：一般建築物石綿含有建材調査者

注意事項

- (1) 当試験の実施時間は、1時間となります。
- (2) 当試験の問題数は、全30問で四肢択一式での回答となります。
- (3) 当試験は、6割以上の正解で合格となります（合格基準：18問以上の正解）。
- (4) 当試験中は、テキスト・資料の閲覧はできません。
- (5) 当試験でカンニング行為を確認した場合、試験結果は無効となります。
- (6) 当試験問題は、講習会で使用した図書「石綿含有建材調査者テキスト」を基に作成してあるため、上記図書の記載内容を基準として回答してください。
- (7) 漢字氏名を必ず記入してください。氏名の記入がない場合、試験結果は無効となります。
- (8) 解答用紙は折り曲げたり、メモやチェック等の書き込みをしないでください。
- (9) 解答用紙は、鉛筆またはシャープペンシル（HB～B）で、濃くはっきりと記入してください。正しく、記入マークされていない場合は、採点できないことがあります。マークシートへの記入は下記のマーク例を参考に1つの問題に対して、1つのみ記入してください。



(登録番号：13-14)

問題 1～問題 30 の全 30 問を回答してください。

問題 1 石綿に関する次の記述の に当てはまる語句の組合せとして、**適当なもの**はどれか。

「石綿障害予防規則において、「石綿等」とは、石綿もしくは石綿をその重量の A %を超えて含有する製剤その他の物をいう。

石綿のうち、工業的に使用された石綿の 9 割以上は B である。」

- | | (A) | (B) |
|-----|-----|--------|
| (1) | 0.1 | アモサイト |
| (2) | 1.0 | アモサイト |
| (3) | 0.1 | クリソタイル |
| (4) | 1.0 | クリソタイル |

問題 2 石綿関連疾患の中皮腫に関する記述として、**適当でないもの**はどれか。

- (1) 中皮腫では、発症までの潜伏期間が 10 年未満の例はない。
- (2) 日本では、女性のびまん性胸膜中皮腫の増加が著しい。
- (3) 石綿関連疾患の中で、中皮腫は最も潜伏期間が長い。
- (4) 悪性中皮腫は、日本では 1995 年以降増加傾向にある。

問題 3 石綿の特徴に関する記述として、**適当でないもの**はどれか。

- (1) 石綿は、引張り強さは極めて小さい。
- (2) 石綿は、不燃性で耐久性がある。
- (3) 石綿は、紫外線や雨などの気象条件に対しても、耐候性に優れている。
- (4) 石綿は、セメント等との密着性に優れている。

問題4 石綿含有建材調査者の規定に関する次の記述の に当てはまる語句の組合せとして、**適当なもの**はどれか。

「事業者は、石綿等の取扱いもしくは試験研究のための製造等に伴い、石綿等の粉じんを発散する場所に常時従事する労働者について、雇入れまたは当該業務の配置替えの際およびその後 A 以内ごとに1回、所定の B を行う必要がある。」

- | | (A) | (B) |
|-----|-----|------|
| (1) | 1年 | 精密検査 |
| (2) | 6月 | 精密検査 |
| (3) | 6月 | 健康診断 |
| (4) | 1年 | 健康診断 |

問題5 事前調査に係る規定に関する記述として、**最も適当でないもの**はどれか。

- (1) 事前調査の対象は、建築物、工作物、船舶の解体又は改修の作業を行うときである。
- (2) 解体等の作業を行う作業所には、作業に従事する労働者に見やすい箇所に石綿含有調査の事前調査結果の掲示を行う必要がある。
- (3) 事前調査結果報告書に基づく調査の記録は、3年間の保存が義務付けられている。
- (4) 建築物にかかわる事前調査は、経済産業大臣が定めた者が行うものとされている。

問題6 大気汚染防止法に関する記述として、**適当でないもの**はどれか。

- (1) 大気汚染防止法では2020（令和2）年6月5日に、石綿成形板等のレベル3を除いたレベル1、2のみが適用対象とされた。
- (2) 大気汚染防止法は、大気汚染に関して、国民の健康を保護するとともに、生活環境を保全することを目的としている。
- (3) 大気汚染防止法では事前調査結果は、工事終了後3年間保存する必要がある。
- (4) 大気汚染防止法の事前調査は、石綿障害予防規則の概要に記載内容と同じである。

問題7 建築基準法に関する次の記述の に当てはまる語句の組合せとして、**適当なもの**はどれか。

「建築物等の増改築時には、原則として石綿の除去が義務付けられているが、増改築を行う部分の床面積が増改築前の床面積の A を超えない場合、増改築を行う部分以外の部分については、封じ込めや囲い込みの措置を行うことは認められて B 。」

- | | (A) | (B) |
|-----|------|-----|
| (1) | 3分の1 | いない |
| (2) | 2分の1 | いない |
| (3) | 3分の1 | いる |
| (4) | 2分の1 | いる |

問題8 建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（建設リサイクル法）の対象建設工
事の規模に関して、**適当でないもの**はどれか。

<u>建設工事種類</u>	<u>規模の基準</u>
(1) 建築物に係る解体工事	建築物の床面積の合計 80 m ² 以上
(2) 建築物に係る新築工事・増築工事	建築物の床面積の合計 500 m ² 以上
(3) 建築物以外のものに係る解体工事 または新築工事	請負代金の額 500 万円以上（税込）
(4) 建築物に係る新築工事等であって 新築または増築の工事に該当しないもの	請負代金の額 5,000 万円以上（税込）

問題9 石綿含有建材調査者の役割に関する記述として、**適当でないもの**はどれか。

- (1) 石綿含有建材調査者が行う建築物の調査には、書面による調査、目視調査、分析調査などがある。
- (2) 石綿含有建材有無に関する事前調査結果報告書の記載内容については、石綿含有建材調査者に責任がある。
- (3) 石綿含有調査の目視調査で、該当材料に石綿の含有が不明な場合、みなし措置もしくは分析して判定する措置があるが、いずれの場合も石綿含有建材調査者が「みなしとする」か「分析するか」を判断する。
- (4) 石綿に関する技術や情報は現在も日々新しくなっているため、石綿含有建材調査者は常に石綿に関する新旧のあらゆる情報をできるだけ多く収集する努力が必要とされている。

問題10 建築物の石綿事前調査に関する次の記述の に当てはまる語句の組合せとして、**適当なもの**はどれか。

「建築物の石綿事前調査においては、目視調査せず書面調査の判定で調査を確定終了 A (2006年9月の石綿等の製造等禁止以降に着工した建築物等は除く)。また、書面調査結果と現場との整合性に差異がある場合は、 B を優先することとする。」

- | | (A) | (B) |
|-----|---------|--------|
| (1) | してはいけない | 現場 |
| (2) | してもよい | 現場 |
| (3) | してもよい | 書面調査結果 |
| (4) | してはいけない | 書面調査結果 |

問題 1 1 建築基準法における建築物の主要構造部として、**適当でないもの**はどれか。

- (1) はり
- (2) ひさし
- (3) 壁
- (4) 階段

問題 1 2 建築物の設計や施工に関する記述として、**適当でないもの**はどれか。

- (1) 設計者の設計理念や発注者からの要求性能によって、吹き付け石綿などの石綿含有建材が使用されている可能性がある。
- (2) 機械室や電気室などに設置された設備機器からの騒音の発生する箇所では、壁や天井などに吸音目的で吹き付け石綿が施工されていた。
- (3) 湿気を嫌う銀行の金庫や書類保管庫などの壁や天井に、湿度調整の目的で吹き付け石綿が施工されている場合がある。
- (4) レストランなどの厨房にグリーストラップがある場合、床スラブに大きな開口を施して設置されるが、防火区画を担保するためグリーストラップ下端に耐火被覆は不要である。

問題 1 3 レベル 1 の石綿含有建材の種類として、**適当でないもの**はどれか。

- (1) 石綿含有保温材
- (2) 吹付け石綿
- (3) 石綿含有吹付けロックウール
- (4) 石綿含有吹付けパーライト

問題 1 4 石綿含有吹付けバーミキュライトに関する次の記述の に当てはまる語句の組合せとして、**適当なもの**はどれか。

「石綿含有吹付けバーミキュライトは、石綿の含有率が他の建築用仕上げ塗材より A 、除去時に石綿の発じんのリスクが B ことから、石綿障害予防規則が制定された 2005 年において、レベル 1 として位置づけられた。」

- | | (A) | (B) |
|-----|-----|-----|
| (1) | 高く | 大きい |
| (2) | 高く | 小さい |
| (3) | 低く | 大きい |
| (4) | 低く | 小さい |

問題 1 5 レベル 3 の石綿含有建材に関する記述として、**適当でないもの**はどれか。

- (1) レベル 3 の石綿含有建材とは、レベル 1、レベル 2 及び建築用仕上塗材（下地調整塗材含む）に該当しない残りのすべての石綿含有建材のことをいう。
- (2) レベル 3 とされている石綿含有建材は製造会社、製品名などの表示がされていない場合が多いため、建材名は特定しにくい。
- (3) レベル 3 とされている石綿含有建材の特徴は、種類や製品数がレベル 1、2 よりも圧倒的に少ないことである。
- (4) 石綿含有の混和材・添加材が使用されている可能性がある建材を、書面調査や目視調査などにおいて特定することは極めて困難である。

問題 1 6 石綿調査の書面調査に関する記述として、**最も適当でないもの**はどれか。

- (1) 書面調査は、現地での目視調査の計画を立てるために行う。
- (2) 目視調査を行いながら現地で同時に書面を確認する事は実務上非効率である。
- (3) 書面調査を行うことで、目視調査の効率性は高まる。
- (4) 書面調査を行うことで、石綿建材の把握漏れ防止には特につながらない。

問題 1 7 設計図書の多様な図面に関する記述として、**適当でないもの**はどれか。

- (1) 図面からの情報は調査における補助的な位置付けである。
- (2) レベル 1、2 の石綿含有建材は建物の外部側での使用が多い。
- (3) レベル 3 の石綿含有建材は建築物の内部側だけでなく、外部側でも使用されている。
- (4) 図面から得られる情報より、現地での確認状況を優先するべきである。

問題 1 8 建築図面がない場合の調査に関する次の記述の に当てはまる語句の組合せとして、**適当なもの**はどれか。

「建築図面等が全くない場合は、図面等のある場合と比べて、調査に要する時間が A なるので、調査期間の工程表等スケジュールを示し、 B にあらかじめ了解を得ておくことが肝要である。」

- | | (A) | (B) |
|-----|-----|-----|
| (1) | 短く | 施工者 |
| (2) | 長く | 発注者 |
| (3) | 長く | 施工者 |
| (4) | 短く | 発注者 |

問題 1 9 事前調査の基本である三現主義を表す言葉として、**適当でないもの**はどれか。

- (1) 現実
- (2) 現場
- (3) 現物
- (4) 現象

問題 2 0 石綿の試料採取時の注意事項等に関する記述として、**適当でないもの**はどれか。

- (1) 石綿含有建材の切断や削り取る範囲は、必要最小限にする。
- (2) 必要に応じて適切な養生を行う。
- (3) 試料採取時は窓・扉等を開けて、換気扇などは稼働させる。
- (4) 試料採取は、周囲に人がいない時間を選んで行うことが望ましい。

問題 2 1 石綿含有建材調査者の健康診断に関する次の記述の に当てはまる語句の組合せとして、**適当なもの**はどれか。

「調査者の石綿調査時の石綿ばく露は、石綿含有建材の除去作業に類似する可能性があることから、 A 以内ごとに 1 回、定期的に医師による健康診断を B 。」

- | | (A) | (B) |
|-----|------|------------|
| (1) | 6 カ月 | 受けることが望ましい |
| (2) | 1 年 | 受けることが望ましい |
| (3) | 1 年 | 受けなければならない |
| (4) | 6 カ月 | 受けなければならない |

問題 2 2 石綿含有建材調査者による試料採取に関する次の記述の に当てはまる語句の組合せとして、**適当なもの**はどれか。

「石綿則に基づく事前調査のアスベスト分析マニュアルでは、試料採取の方法として、 A と考えられる建材の範囲ごとに、原則として B 以上から試料を採取することを示している。」

- | | (A) | (B) |
|-----|-----|-----|
| (1) | 別々 | 3カ所 |
| (2) | 同一 | 3カ所 |
| (3) | 別々 | 1カ所 |
| (4) | 同一 | 1カ所 |

問題 2 3 試料採取箇所の選定に関する記述として、**適当でないもの**はどれか。

- (1) 建築物の施工年によっては、石綿含有のものと石綿無含有のものとが混在している時期があったりする。
- (2) 室内の除去工事が完了していれば、設置された分電盤のような装置類、計器類などの裏には石綿が残置されている可能性はなく、この建築物の解体時などでは飛散することはない。
- (3) 大規模な施工現場では、二以上の施工業者が吹き付け作業を行い、石綿無含有のものを施工する業者と石綿含有のものを施工してしまう業者が発生することがある。
- (4) 部分改修した痕跡があるにもかかわらず調査者がそれを見落として、改修に使用した表層部分だけを目視観察や採取するようなことが考えられる。

問題 2 4 試料採取の際の留意点に関する記述として、**適当でないもの**はどれか。

- (1) 複合・複層建材から試料採取する場合は、代表的な層の試料のみ採取すればよい。
- (2) 複合・複層建材は、一部の建材に石綿が含有されている場合がある。
- (3) 試料採取の最中に石綿含有建材から石綿繊維が飛散しないようにするため、採取箇所を事前に湿らせる必要がある。
- (4) 試料採取する場所の近くに電気機器がある場合、水の使用は控える。

問題 2 5 建材の石綿分析法に関する次の記述に該当する名称として、**適当なもの**はどれか。

「建材中・製品中・原材料中に含まれるアスベスト特有の色・多色性、複屈折の大きさ、消光角、伸張の符号、分散色といった光学的性質を確認する分析法である。」

- (1) 定量分析方法 1 (X線回折分析法)
- (2) 定性分析方法 1 (偏光顕微鏡法)
- (3) 定性分析方法 2 (X線回折分析法・位相差分散顕微鏡法)
- (4) 定性分析方法 3 (電子顕微鏡法)

問題 2 6 石綿含有建材の調査票と分析結果に関する記述として、**適当でないもの**はどれか。

- (1) 調査者は部屋別の目視調査個票は、調査日から少し日を置いて、記憶を思い出しながら作成することが望ましい。
- (2) 試料間汚染のことをクロスコンタミネーションという。
- (3) 「分析機関から送られてきた結果には間違いがない」という思い込みは危険である。
- (4) 調査者は得られた分析結果が妥当であるかどうかの最終判断をする必要がある。

問題 2 7 石綿含有建材の調査結果の概要に関する記述として、**適当でないもの**はどれか。

- (1) 調査結果報告書には、今回調査できなかった箇所となぜ調査できなかったかを詳しく記載する。
- (2) 石綿含有建材とみなす理由は、調査依頼者に尋ねられる場合も多いので、調査結果報告書に簡潔に書くことが必要である。
- (3) 吹付け石綿等のレベル 1 建材については劣化状況を確認すれば、特記事項に記載する必要はない。
- (4) 石綿なしと判断した場合、その同一と考えられる建材範囲ごとに判断根拠が明確となるように事前調査結果報告書に記録する。

問題 2 8 書面調査と目視調査それぞれ記載する必要がある実施者に関する情報として、**適当でないもの**はどれか。

- (1) 資格名
- (2) 資格認定（登録）番号
- (3) 生年月日
- (4) 氏名

問題 2 9 調査結果報告書の記載に関する記述として、**適当でないもの**はどれか。

- (1) 目視調査で書面と現地が整合する場合は○、整合しない場合は×で明示する。
- (2) 目視調査で材料名は、整合する場合のみ記載する。
- (3) 書面調査の段階で判断できる場合には、「あり」または「なし」と記載する。
- (4) 書面調査の段階で判断できない場合には、「不明」と記載する。

問題 30 調査の結果「石綿あり」の場合の建築物の維持管理に関する記述として、**適当でないもの**はどれか。

- (1) 位置図を基に、年 1 回定期的に劣化等の状況の外観検査を行う。
- (2) 該当室内等で各種作業を行う場合は、該当部位に接触または、機械等による損傷を避けるように関係者に通知する。
- (3) 該当部位に石綿含有ありとの表示を行う。
- (4) 該当部位を封じ込め等の飛散防止処置をした場合、その旨の表示をする必要はない。

修了考査試験の合格基準：全体の 6 割以上の正解